

(町並み版)

※ (町並み版) とは...

プロフィールを作成した27箇所の歴史的資産周辺の景観特性をよりきめ細やかに把握するため、周辺を景観特性ごとにエリア区分し、そのエリアごとに、町並みの特徴や景観形成の方針、建築計画等に求める配慮事項などをまとめたものです。

1 妙心寺からの眺望景観

【周辺の特徴】

- ・ 広い境内に多くの塔頭が立ち並び、一大寺院群を形成している。比較的平坦な地形で塔頭が境内の周辺部に建っているため、境内から外部が見えることはほとんどない。
- ・ 境内の東側に隣接して、花園中学高等学校や門徒会館など、比較的大型の建築物があり、境内からも一部が見える。



1-1 南総門から南への眺望
：南総門前は東西方向に妙心寺道、南西方向に参道が伸びている。



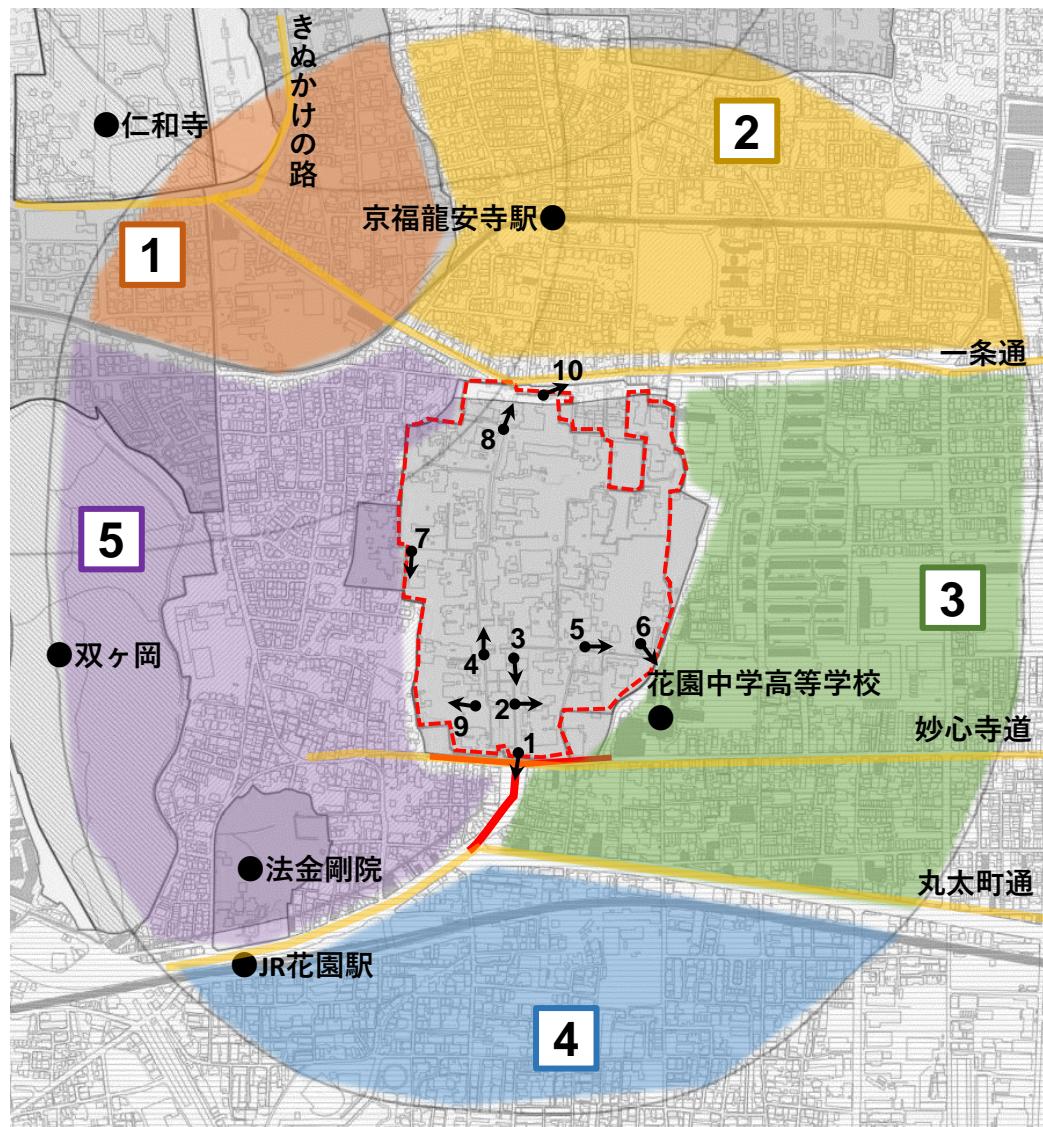
1-2 浴室脇から東への眺望
：松の間から高層建築物が見える。



1-3 法堂脇から南への眺望
：南北の通路は生活通路となっている。



1-4 法堂脇から北への眺望
：境内は広大で周囲の建築物等はほとんど見えない。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



1-7 玉龍院前から南への眺望
：塔頭と住宅が混在している。



1-8 天球院前から北への眺望
：北総門より北側には高層建築物が少なく山の稜線がよく見える。



1-9 慈雲院前から西への眺望
：慈雲院越しに、双ヶ岡が見える。



1-5 開山堂前から東への眺望
：花園高校の校舎の一部が見える。



1-6 境内東部から東南への眺望
：塀近くでは花園高校の校舎がよく見える。



1-10 境内北部から北東への眺望
：塀の外側では民家の屋根並が見える。

2 妙心寺周辺の景観

【周辺の特徴】

- ・区画整理事業が行われる以前は市街地から離れた田園風景の中の寺院群であったが、現在は住宅街が広がっている。
- ・一条通と妙心寺道で洛中につながっていたことから、その周辺に古い町並みが残る。



2-1 府道101号から北西への眺望
：中低層建築物が立ち並ぶ。



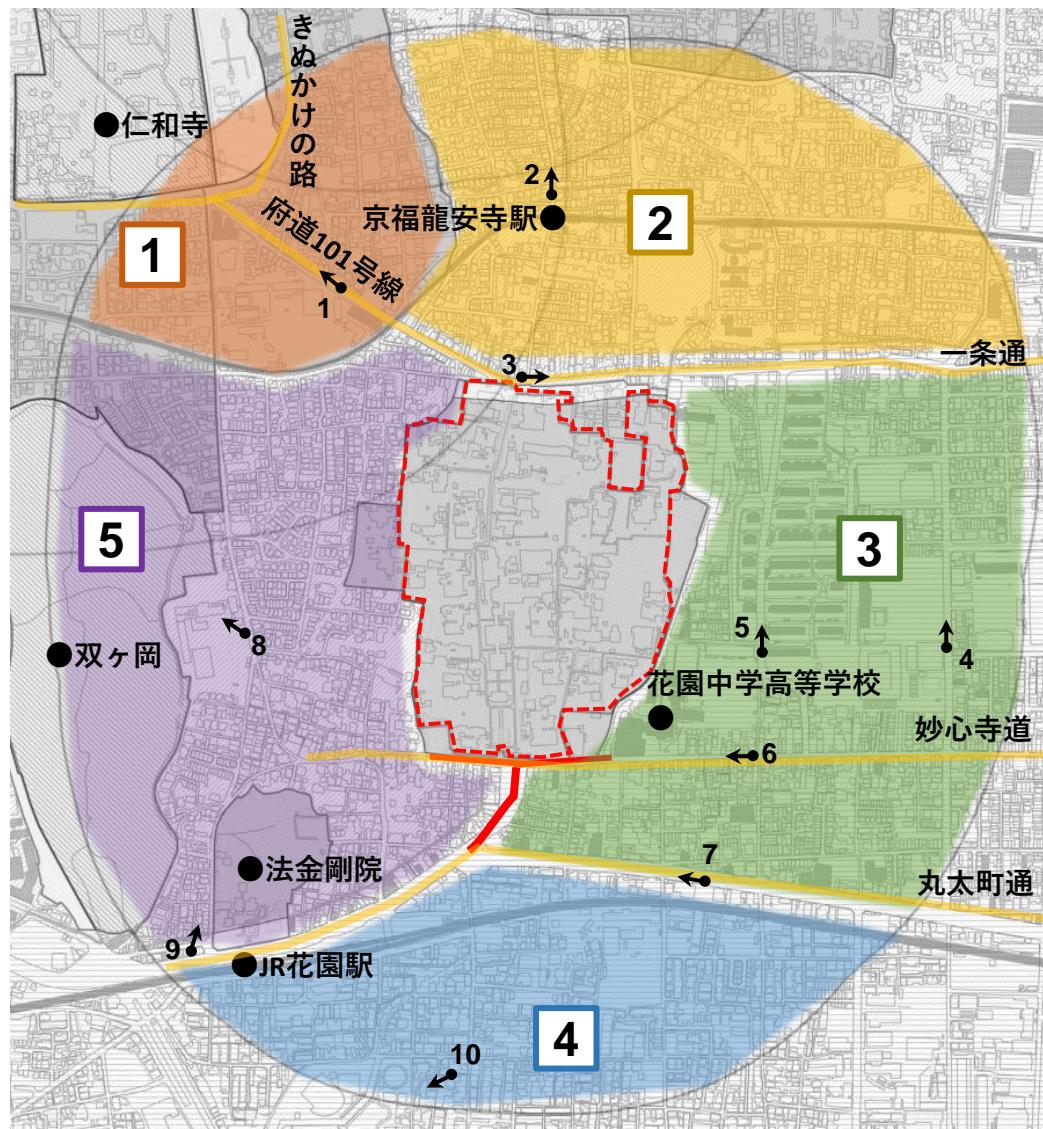
2-2 龍安寺参道商店街
：北総門から龍安寺方向に商店街が続く。



2-3 北総門前から東への眺望
：一条通沿いは新旧民家が混在している。



2-4 馬代通から北への眺望
：沿道に山城高校が、遠景に衣笠山が見える。



 視点場（境内）
 視点場（参道等）
 主な通り



2-5 木辻通から北への眺望
：建設から40年近く経つ花園団地。



2-6 妙心寺道（木辻商店街）から西への眺望
：町家等が残る町並み。周山街道へつながる。



2-7 丸太町通から西への眺望
：中高層建築物が立ち並ぶ。



2-8 双ヶ岡中学前から双ヶ岡への眺望
：付近の市街地から双ヶ岡がよく見える。

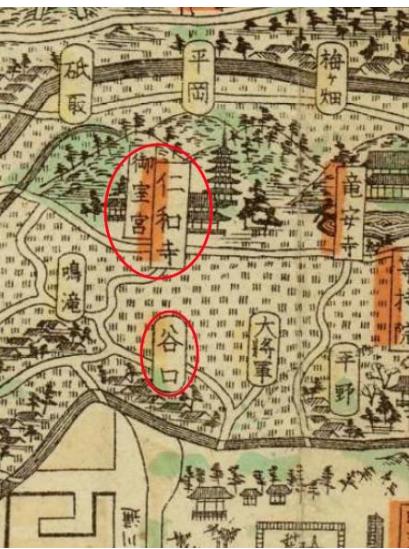
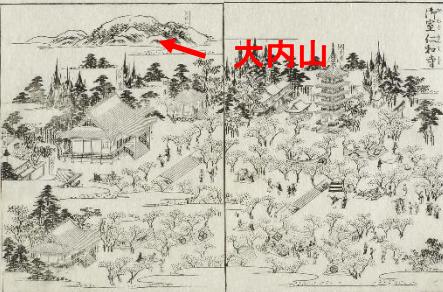


2-9 法金剛院西側から北への眺望
：五位山古墳が見え緑豊かな景観。



2-10 竹林禅寺前の町並み
：旧安井村の北限にあたる。周囲は比較的新しい住宅が立ち並ぶ。

3 妙心寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

1 妙心寺北西側		参考写真等				
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> 西ノ川沿い、衣笠山と大内山との間の谷口にあたることから、古くは谷ノ口と称した。宝徳2年地内北方の朱山の麓に臨済宗龍安寺が建立され、同4年同寺寺領となったため、龍安寺門前と改称されたという。しかし、谷口の名称が近代に至るまで併用されている(図3-1)。天正17年一部が妙心寺・等持院領に割かれた。 都名所図会にも仁和寺とあわせて大内山が描かれている。(図3-2) 	 <p>3-1 「新版京都地圖」 明治38 (1905)</p>				
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> 昭和初期以降徐々に市街化が進んだ地域であり、戦後に建てられた住宅が多いが、生垣や樹木が多く配され、緑豊かな落ち着いた町並みが続いている。 仁和寺東側には傳法輪寺や蓮華寺、龍安寺南側には住吉大伴神社などの寺社が住宅地の中で存在感をもっており、寺社の樹木が、町並みの緑をさらに豊かなものにしていく。 	 <p>3-2 「都名所図会」安永7年 (1780) から「御室仁和寺」</p>				
ウ 景観形成方針	<table border="1"> <tr> <th>風致地区</th> <th>仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域</th> </tr> <tr> <td>衣笠山から西山に連なる産地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。妙心寺については、肅然と立ち並ぶ禅刹の建築群が見る人に深い感動を与える。</td> <td>きぬかけの路沿道及び門前周辺の住宅地では、仁和寺及び龍安寺の豊かな緑との調和を図る。特にきぬかけの路沿道では、門前景観の形成を図る。</td> </tr> </table>	風致地区	仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域	衣笠山から西山に連なる産地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。妙心寺については、肅然と立ち並ぶ禅刹の建築群が見る人に深い感動を与える。	きぬかけの路沿道及び門前周辺の住宅地では、仁和寺及び龍安寺の豊かな緑との調和を図る。特にきぬかけの路沿道では、門前景観の形成を図る。	 <p>3-3 きぬかけの路の町並み</p>
風致地区	仁和寺・龍安寺周辺特別修景地域					
衣笠山から西山に連なる産地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。妙心寺については、肅然と立ち並ぶ禅刹の建築群が見る人に深い感動を与える。	きぬかけの路沿道及び門前周辺の住宅地では、仁和寺及び龍安寺の豊かな緑との調和を図る。特にきぬかけの路沿道では、門前景観の形成を図る。					
エ 建築計画等に求める配慮事項	<p>これらの緑豊かな和風空間の維持を図る。また市民の日常的な、緑あふれる憩いの場として保全を図り、周辺では低層住宅地域による周辺環境の保全を図る。</p> <p>既存樹木の保存に努め、原則として道路側には生垣又は和風塀を設ける。また、建築物は日本瓦ぶき和風外観とする。特にきぬかけの路沿道では、建築物は、原則として軒の連なりに配慮した切妻平入形式とする。</p>	 <p>3-4 住吉大伴神社南の町並み</p>				

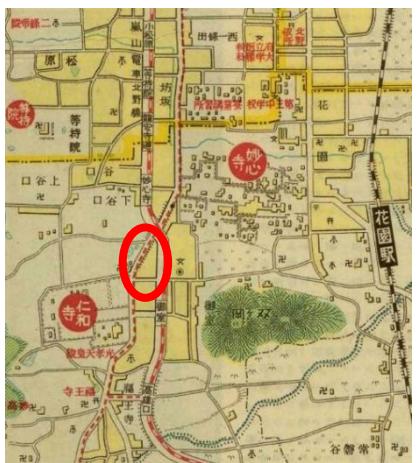
2 妙心寺北側		参考写真等				
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> 西ノ川沿い、衣笠山と大内山との間の谷口にあたることから、古くは谷ノ口と称した。宝徳2年地内北方の朱山の麓に臨済宗龍安寺が建立され、同4年同寺寺領となったため、龍安寺門前と改称されたという。しかし、谷口の名称が近代に至るまで併用されている(図3-1)。天正17年一部が妙心寺・等持院領に割かれた。 都名所図会にも仁和寺とあわせて大内山が描かれている。(図3-2) 	 <p>3-5 京福龍安寺駅 (昭和初期頃)</p>				
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> 京福電鉄の開通を機に、昭和初期以降開発が進んだ地域であり、古くからある寺社の周囲に、低層の住宅地が広がっている。 妙心寺の北門から、北へ龍安寺駅を経て龍安寺に至る龍安寺道沿いには、龍安寺参道商店街の商店が立ち並んでいる。 南北の通りからは、北に衣笠山を望むことができ、歴史を感じさせる風景が身近にある地域である。 妙心寺北門前を東西に通る一条通沿いには、古い建築物が多く残っており、和菓子、お茶、お花などお寺との関連が深い商店が並んでいる。 旧集落のある等持院南町は南から見ると高台となっていてその麓には宇多川の支流があり、すり鉢状の地形をしている。 	 <p>3-6 龍安寺参道商店街</p>				
ウ 景観形成方針	<table border="1"> <tr> <th>山ろく型建造物修景地区</th> <th>風致地区</th> </tr> <tr> <td>妙心寺等の歴史的資産があり、その周辺には山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。</td> <td>衣笠山から西山に連なる産地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。</td> </tr> </table>	山ろく型建造物修景地区	風致地区	妙心寺等の歴史的資産があり、その周辺には山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。	衣笠山から西山に連なる産地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。	 <p>3-7 龍安寺駅の一本東の通りから北への眺望。衣笠山が見える。</p>
山ろく型建造物修景地区	風致地区					
妙心寺等の歴史的資産があり、その周辺には山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。	衣笠山から西山に連なる産地の南麓部をしっかりと押さえる格好で仁和寺・龍安寺の大きな境内地が立地し、市街地においても宅地も中規模以上の地域が多く、緑化が行き届いた住宅地が形成されている。					
エ 建築計画等に求める配慮事項	<p>歴史的資産等の周辺では勾配屋根を設け、壁面の色彩を暖色系の自然素材色とするなど、和風基調の町並み景観を形成する。</p> <p>これらの緑豊かな和風空間の維持を図る。また市民の日常的な、緑あふれる憩いの場として保全を図り、周辺では低層住宅地域による周辺環境の保全を図る。</p>	 <p>3-8 左が一条通、右は等持院南町の一部。高低差が大きく、右手はすり鉢状の地形となっている。</p>				

3 妙心寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

3 妙心寺東側

ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉時代末期、この地には花園法皇の離宮があり、後に関山慧玄を迎えて禅刹として改められ、妙心寺となった。妙心寺の宗門校として、花園中学校・高等学校、花園大学が、開設されている。 近代に入り、明治31年（1899）に京都鉄道の二条駅一嵯峨野駅間に花園駅新設開業。その後、西日本旅客鉄道（JR西日本）の駅となる。大正14年（1925）に京都電燈が北野駅 - 高雄口駅（現・京福電気鉄道宇多野駅）間を開業し、1926年全通時には妙心寺駅ができた（図3-9）。
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> 馬代通以東は区画整理事業で整備された街区である。 山城高校、花園中学、京都学園中学などの教育施設やUR花園団地などの大規模な建築物が集まっており、その間に中低層の住宅地が広がっている。 妙心寺道、一条通は古くから旧市街地から延びた街道でその沿道には今も町家が残る。 妙心寺道と春日通の交差点付近には北野天満宮の御旅所があり、周辺は天神御旅商店街となっている。そこから妙心寺に近づくと成願寺があり、その周辺は木辻商店街である。 花園団地は植栽豊かな環境を形成している。 <p>文化財等：上田家住宅（町家ぎやらりー妙芸）主屋、堀江家住宅主屋</p>
ウ 景観形成方針	<p>山並み背景型建造物修景地区</p> <p>この地域一帯は、広隆寺、蚕ノ社、妙心寺、法金剛院、車折神社等の歴史的資産を残す。またこの地域は、嵐山や小倉山さらに嵯峨野・御室の住宅地の背景にある北山に囲繞された地形を呈している。</p>
エ 求める建築計画等に配慮事項	<p>建築物等は、背景の山並みに調和するよう、勾配屋根を設置する等の屋上のデザインと壁面の色彩に配慮するとともに、生垣を設ける等、敷地内の植栽を誘導することにより、山並みと調和した落ち着いた町並み景観の創出を図る。</p> <p>また、歴史的資産の周辺においては、それらと調和した町並み景観の保全、創出を図る。</p>

参考写真等



3-9 「大京都市街地図」昭和2年（1927）



3-10 妙心寺道の町並み



3-11 花園団地



3-12 丸太町通から西への眺望。妙心寺の参道につながる交差点

4 妙心寺南側

ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> 鎌倉時代末期、この地には花園法皇の離宮があり、後に関山慧玄を迎えて禅刹として改められ、妙心寺となった。妙心寺の宗門校として、花園中学校・高等学校、花園大学が、開設されている。 近代に入り、明治31年（1899）に京都鉄道の二条駅一嵯峨野駅間に花園駅新設開業。その後、西日本旅客鉄道（JR西日本）の駅となる。大正14年（1925）に京都電燈が北野駅 - 高雄口駅（現・京福電気鉄道宇多野駅）間を開業し、1926年全通時には妙心寺駅ができた（図3-9）。
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> 明治30年に鉄道が開通し花園駅が整備され、以降徐々に市街化が進んだ地域である。 丸太町通沿いは、中高層の商業系のビルやマンションと、低層の住宅、商店などが混在して立ち並んでいる。 旧村の古い町並みと戦後に建築された戸建て住宅、集合住宅が混在した低層高密な市街地が連続している。 JRの高架下には新しい町並みが見られる。
ウ 景観形成方針	<p>山並み背景型建造物修景地区</p> <p>この地域一帯は、広隆寺、蚕ノ社、妙心寺、法金剛院、車折神社等の歴史的資産を残す。またこの地域は、嵐山や小倉山さらに嵯峨野・御室の住宅地の背景にある北山に囲繞された地形を呈している。</p>
エ 求める建築計画等に配慮事項	<p>建築物等は、背景の山並みに調和するよう、勾配屋根を設置する等の屋上のデザインと壁面の色彩に配慮するとともに、生垣を設ける等、敷地内の植栽を誘導することにより、山並みと調和した落ち着いた町並み景観の創出を図る。</p> <p>また、歴史的資産の周辺においては、それらと調和した町並み景観の保全、創出を図る。</p>

参考写真等



3-13 丸太町通の町並み



3-14 JRの南側の住宅地



3-15 JRの高架下

3 妙心寺周辺の歴史的景観の特徴と建築計画への配慮事項

5 妙心寺西側		参考写真等
ア エリアの歴史等	<ul style="list-style-type: none"> ・西部には古墳のある双ヶ丘がそびえている。 ・宇多野は、福王子・鳴滝一帯を中心に広く花園の地も含まれたと言われる。「日本後記」にも、宇太野と記され、当地を山陵の地と定めている。「日本後記」や「続古今和歌集」などの記述より、古来、鷹狩りなどの猟遊地であった双ヶ岡がうかがえる。 	
イ 町並みの特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・妙心寺と双ヶ丘との間の地域は妙心寺道からつながる仁和寺までの一本道が古くからあったが、その周辺には田園が広がっていた。戦後、田園風景は宅地開発されて入り組んだ街路となっている。 ・傾斜地を利用した双ヶ岡中学のひな壇上の敷地が斜面地特有の景観を形成している。 ・至る所から双ヶ岡がよく見え、自然や緑を身近に感じることができる。 ・日本キネマ撮影所の跡地の工場が再整備され、閑静な住宅地となっている。 ・エリア南の五位山古墳周辺には古い町並みがあり、古墳北側には旧集落の街並みが残っている。古墳南側は寺院群となっている。 <p>文化財等：双ヶ岡(名勝)</p>	<p>3-17 「都名所図会」 安永7年(1780)から「雙岡」</p>  <p>3-18 和のまち御室の町並み 閑静な住宅地となっている。</p>
ウ 景観形成方針	<p>山ろく型建造物修景地区</p> <p>妙心寺等の歴史的資産があり、その周辺には山ろくの自然景観に調和する良好な景観を形成する地域である。</p>	
エ 建築計画等に求める配慮事項	<p>歴史的資産等の周辺では勾配屋根を設け、壁面の色彩を暖色系の自然素材色とするなど、和風基調の町並み景観を形成する。</p>	<p>3-19 双ヶ岡中学前から双ヶ岡への眺望</p>

- 3-1 「新版京都地圖」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-2 「都名所図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-5 (京福龍安寺駅の写真) 京福電鉄提供
- 3-9 「大京都市街地」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)
- 3-17 「都名所図会」国際日本文化研究センター (<http://www.nichibun.ac.jp>)